

# オランザピン OD 錠の溶出挙動に関わる資料

ニプロ E S ファーマ株式会社

## オランザピン OD 錠 5mg「NP」

オランザピン OD 錠 5mg「NP」は、1 錠中にオランザピン 5mg を含有する素錠である。

今回、本製剤と標準製剤(ジプレキサザイデリス錠(OD 錠、5mg))との溶出挙動の類似性を評価するために、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(薬食審査発 0229 第 10 号：平成 24 年 2 月 29 日一部改正)(以下、ガイドライン)に従い、溶出試験を実施した。なお、試験液でイオン強度が低い水を用いた場合、オランザピンが添加剤に吸着され、回収率が低下するため、水を除いた 3 つの試験液での溶出試験結果(50rpm：pH1.2, 5.0, 6.8)により溶出挙動の評価を行うこととし、水の溶出試験結果は参考扱いとした。

### 1. 試験方法

#### (1) 検体

試験製剤：オランザピン OD 錠 5mg「NP」(Lot No.OLZ5-D-R001)

標準製剤：ジプレキサザイデリス錠(OD 錠、5mg)

有効成分：オランザピン

#### (2) 試験条件

試験法	回転数	試験液		試験液量
パドル法	50rpm	①	pH1.2：日本薬局方溶出試験第 1 液	900mL
		②	pH5.0：薄めた McIlvaine の緩衝液	
		③	pH6.8：日本薬局方溶出試験第 2 液	

試験液の温度：37±0.5℃

オランザピンが塩基性薬物であることから、ガイドラインの第 3 章 A. V. 3. 2)「中性又は塩基性薬物を含む製剤、コーティング製剤」に従い行った。

\* パドル法、100 回転で実施すべき試験液性(pH6.8)において、パドル法、50 回転の溶出試験で 30 分以内に標準製剤、試験製剤ともに平均 85%以上溶出したので、100 回転の溶出試験は省略した。

#### (3) 溶出挙動の同等性の判定基準

ガイドラインの判定基準に従った(該当する基準をガイドラインより抜粋)。

##### ① 標準製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する場合

試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。(①②③)

## 2. 結果

その結果、試験製剤の平均溶出率はいずれの条件においてもガイドラインの基準に適合した。

### 平均溶出率を用いての判定

試験液	回転数 (rpm)	判定時点 (分)	平均溶出率(%), n=12			判定基準*2	判定
			標準製剤	試験製剤	溶出率の差 (%)*1		
① pH1.2	50	15	100.1	101.5	1.4	85%以上/ ±15%以内	適
② pH5.0	50	15	100.5	103.0	2.5		適
③ pH6.8	50	15	102.3	102.0	-0.3		適
④ 水(参考)*3	50	15	93.5	88.0	-5.5	—	—

\*1 溶出率の差(%)=試験製剤の平均溶出率(%)－標準製剤の平均溶出率(%)

\*2 判定基準：平均溶出率あるいは平均溶出率の差

\*3 試験液でイオン強度が低い水を用いた場合、オランザピンが添加剤に吸着され、回収率が低下するため、参考データとした。

## 3. 結論

オランザピン OD 錠 5mg「NP」及び標準製剤について、ガイドラインで定められている試験条件で溶出性を比較検討した結果、いずれの条件においてもガイドラインの基準に適合し、両製剤の溶出挙動は類似していると判断した。

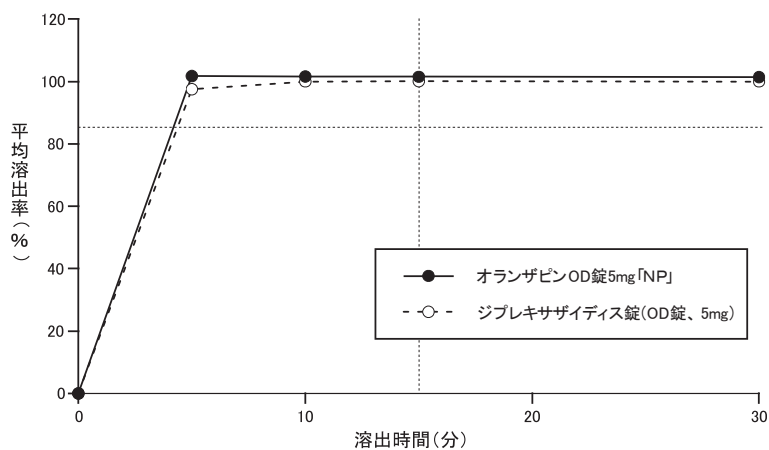
### 付表

各測定時点における試験製剤と標準製剤の平均溶出率について、表(平均値±標準偏差)及びグラフ(平均値)に示した。

①試験液：pH1.2      回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	101.7±0.9	101.6±0.8	101.5±0.8	101.4±0.7
標準製剤	97.5±2.7	100.0±0.8	100.1±0.8	100.0±0.8

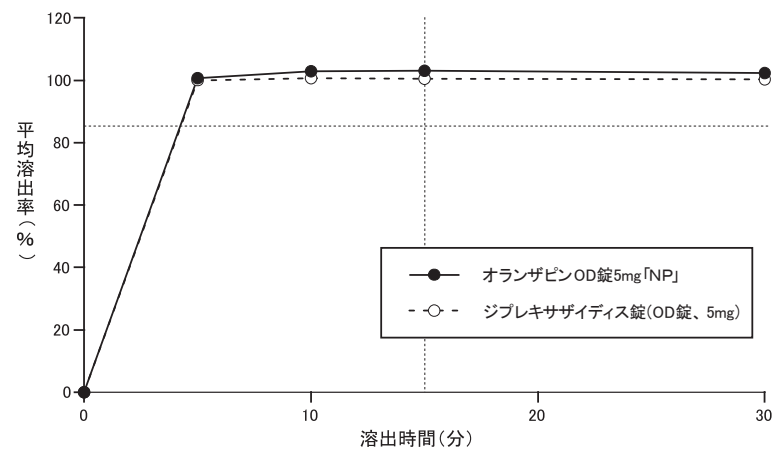
(n=12/時点)



②試験液：pH5.0 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	100.7±2.5	102.9±1.6	103.0±0.9	102.3±1.2
標準製剤	100.0±1.9	100.7±1.8	100.5±1.6	100.3±1.4

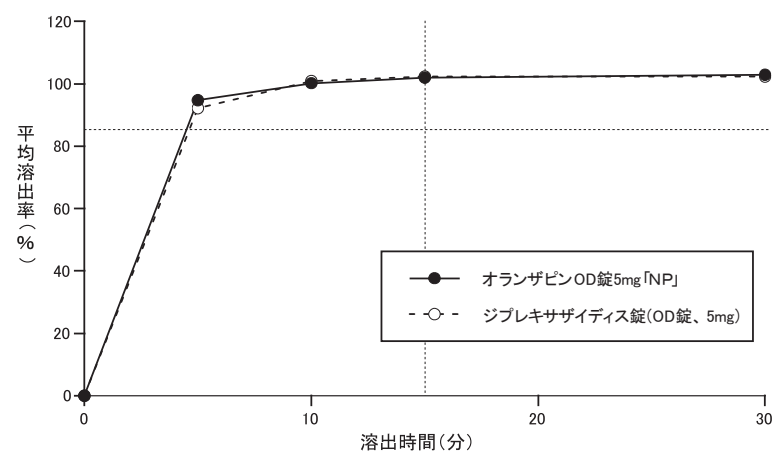
(n=12/時点)



③試験液：pH6.8 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	94.7±3.0	100.2±2.2	102.0±2.1	102.9±2.0
標準製剤	92.2±4.0	100.9±1.7	102.3±0.9	102.3±1.0

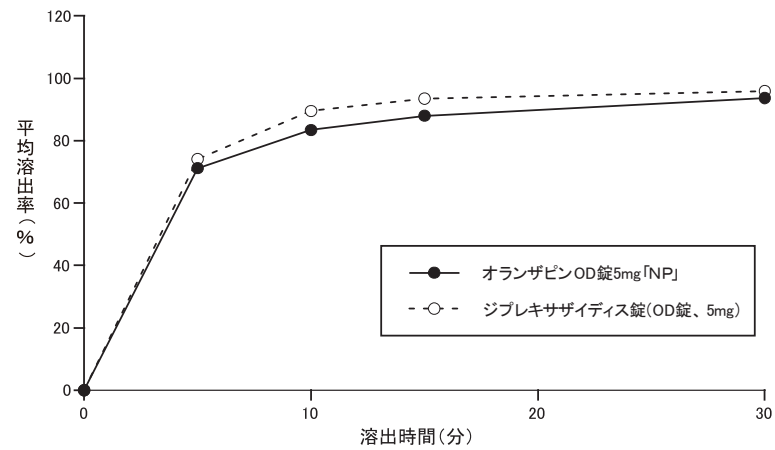
(n=12/時点)



④(参考)試験液：水 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	71.2±1.5	83.4±0.9	88.0±0.9	93.7±1.0
標準製剤	74.1±1.7	89.5±1.2	93.5±1.3	95.9±1.0

(n=12/時点)



## オランザピン OD 錠 10mg「NP」

オランザピン OD 錠 10mg「NP」は、1 錠中にオランザピン 10mg を含有する素錠である。その処方を「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」(薬食審査発 0229 第 10 号：平成 24 年 2 月 29 日一部改正)「第 3 章. 1. 製剤の処方変更水準」に基づき、ヒトを対象とした生物学的同等性試験により先発医薬品との同等性が確認されているオランザピン OD 錠 5mg「NP」の処方と比較したところ、B 水準であった。

オランザピン OD 錠 5mg「NP」を標準製剤として、「第 3 章. 2. 要求される試験 B 水準」に従い 4 液性で溶出挙動の同等性を評価した。

### 1. 試験方法

#### (1) 検体

試験製剤：オランザピン OD 錠 10mg「NP」(Lot No.OLZ10-D-R001)

標準製剤：オランザピン OD 錠 5mg「NP」(Lot No.OLZ5-D-R001)

有効成分：オランザピン

#### (2) 試験条件

試験法	回転数	試験液		試験液量
パドル法	50rpm <sup>*1</sup>	①	pH1.2：日本薬局方溶出試験第 1 液	900mL
		②	pH5.0：薄めた McIlvaine の緩衝液	
		③	pH6.8：日本薬局方溶出試験第 2 液	
		④	0.2%塩化ナトリウム <sup>*2</sup>	

試験液の温度：37±0.5℃

オランザピンが塩基性薬物であることから、ガイドラインの第 3 章 A. V. 3. 2)「中性又は塩基性薬物を含む製剤、コーティング製剤」に従った。

\*1 パドル法、100 回転で実施すべき試験液性(pH6.8)において、パドル法、50 回転の溶出試験で 30 分以内に標準製剤、試験製剤ともに平均 85%以上溶出したので、100 回転の溶出試験は省略した。

\*2 標準製剤で試験液に水を用いた際、オランザピンが添加剤に吸着される現象がみられたため、ガイドラインに準じて、水に替えて 0.2%塩化ナトリウム溶液を用いた。

#### (3) 溶出挙動の同等性の判定基準

ガイドラインの判定基準に従った(該当する基準をガイドラインより抜粋)。

##### (1) 平均溶出率

##### ① 標準製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する場合

試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にある。(①②③④)

##### (2) 個々の溶出率

最終比較時点(いずれの試験液も 15 分)における試験製剤の個々の溶出率について、以下のいずれかの基準に適合する。

a. 標準製剤の平均溶出率が 85%(徐放性製剤では 80%)以上に達するとき、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。(①②③④⑤)

b. 略

c. 略

## 2. 結果

次表に示す如く、試験製剤の平均溶出率及び個々の溶出率について、いずれの条件においてもガイドラインの基準に適合した。

### 平均溶出率を用いての判定

試験液	回転数 (rpm)	判定時点 (分)	平均溶出率(%), n=12			判定基準*2	判定
			標準製剤	試験製剤	溶出率の差 (%)*1		
① pH1.2	50	15	101.5	100.6	-0.9	85%以上/ ±10%以内	適
② pH5.0	50	15	103.0	101.6	-1.4		適
③ pH6.8	50	15	102.0	100.2	-1.8		適
④ 0.2%塩化 ナトリウム液	50	15	91.1	88.3	-2.8		適

\*1 溶出率の差(%)=試験製剤の平均溶出率(%)－標準製剤の平均溶出率(%)

\*2 判定基準：平均溶出率あるいは平均溶出率の差

### 個々の溶出率(%)を用いての判定

試験液	pH1.2	pH5.0	pH6.8	0.2%塩化 ナトリウム液
回転数(rpm)	50	50	50	50
最終比較時点(分)	15	15	15	15
1	101.9	102.4	100.6	89.0
2	100.4	102.1	100.5	89.2
3	100.0	100.1	101.1	88.1
4	100.3	100.3	99.6	88.8
5	100.0	101.6	100.5	89.1
6	99.8	102.4	99.9	88.9
7	100.9	101.5	100.3	86.7
8	101.2	100.7	99.1	87.7
9	100.5	102.6	99.9	88.1
10	100.3	101.4	98.4	87.8
11	100.9	100.6	100.9	87.8
12	101.1	102.9	101.8	88.7
平均	100.6	101.6	100.2	88.3
最大溶出率	101.9	102.9	101.8	89.2
最小溶出率	99.8	100.1	98.4	86.7
±15%を超える個数	0	0	0	0
判定	適	適	適	適

## 3. 結論

オランザピン OD 錠 10mg「NP」及び標準製剤について、ガイドラインで定められている試験条件で溶出性を比較検討した結果、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

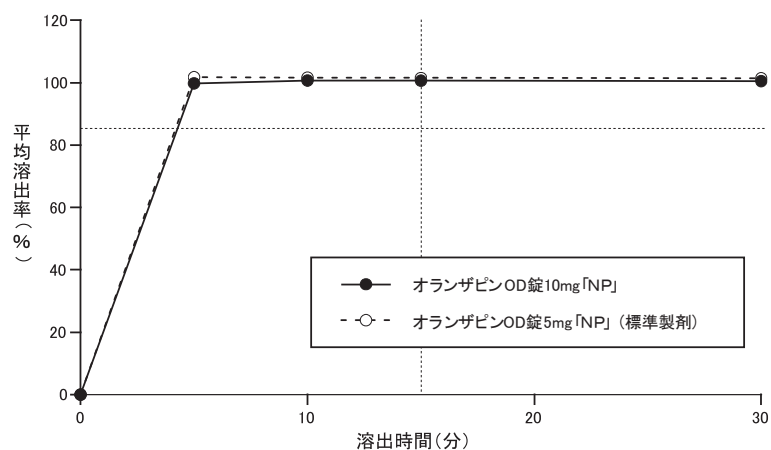
## 付表

各測定時点における試験製剤と標準製剤の平均溶出率について、表(平均値±標準偏差)及びグラフ(平均値)に示した。

①試験液：pH1.2 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	99.8±1.7	100.7±0.6	100.6±0.6	100.5±0.6
標準製剤	101.7±0.9	101.6±0.8	101.5±0.8	101.4±0.7

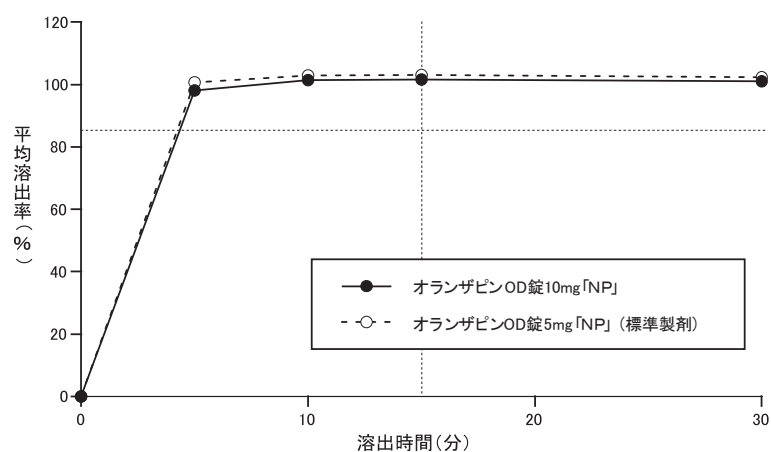
(n=12/時点)



②試験液：pH5.0 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	98.1±2.7	101.4±0.9	101.6±1.0	101.0±0.6
標準製剤	100.7±2.5	102.9±1.6	103.0±0.9	102.3±1.2

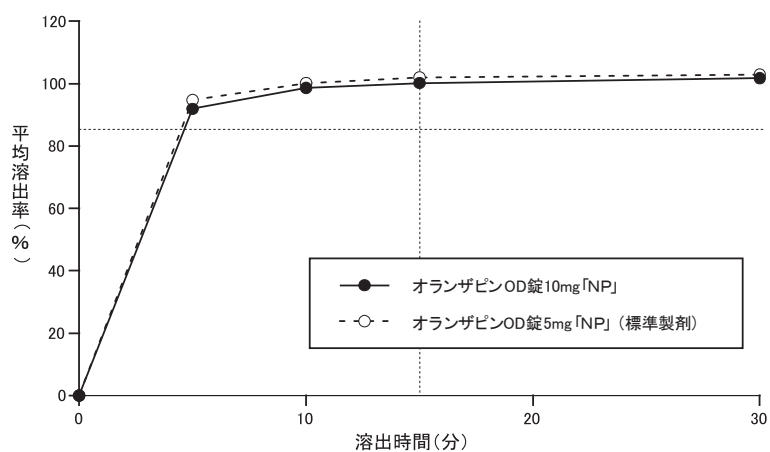
(n=12/時点)



③試験液：pH6.8 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	91.9±2.3	98.6±0.7	100.2±0.9	101.7±0.6
標準製剤	94.7±3.0	100.2±2.2	102.0±2.1	102.9±2.0

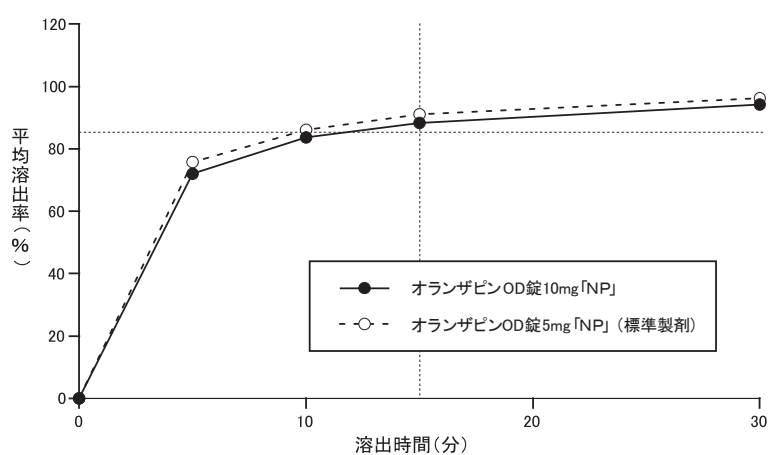
(n=12/時点)



④試験液：0.2%塩化ナトリウム溶液 回転数：50rpm

	平均溶出率(%)			
	5 分	10 分	15 分	30 分
試験製剤	72.0±1.7	83.6±0.7	88.3±0.8	94.2±0.9
標準製剤	75.8±1.4	86.1±1.8	91.1±0.9	96.2±1.1

(n=12/時点)



(2023 年 10 月改訂)